



カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



自分の罪が消し去られるように悔い改めて立ち帰りなさい。こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられたメシアであるイエスを遣わしてください。使徒行録 3,19.20

響き合う

助任司祭 田中 昇

みなさんはフルートという楽器をご存知でしょうか。普通フルートと聞くと、銀や金で出来た見た目も音色も艶やかなイメージの楽器を想像される方が多いと思います。しかしフルートは、150年ほど前までは木製のものが主流で、職人が何十年もねがせた木材を一本一本丁寧にフルートに仕上げている、音色も今

よりずっと柔らかかったです。当然、後期ロマン派くらいまでの作曲家がイメージしていたフルートの音色は木製の音でした。ところが近代の大規模な工業化、世界の富国強兵への動きと時を同じくして、オーケストラの楽曲の大型化、演奏会場の大規模化に伴って、より大きく通りの良い音、さらには楽器を量産化する技術

が追求され、その結果、現在のよう金属のフルートが工場で大量に作られるようになり、ここ半世紀の内に全世界的に普及していきまし。ところが技術的にほぼ検討され尽くされた感のあるフルートは、近年、その音色、材質そのものが見直されるようになりまし。オーケストラに埋もれないくらい、鋭く通りの良い大きな音がすぐ鳴って吹きやすいというだけの楽器は、もはや重宝されなくなっています。その反面、音色の深み、音の温もり、響きの幅の広さ、他の楽器との調和などを目指す動きが強まっていて、昔のように職人の手による木製のフルートが再び注目を集めるようになってい。そうした音の追及は、どこか近代化や戦後の工業化の波の中で人間が忘れてしまったもの、人間の感性により豊かに響く音への自然な憧れであるのかもしれない。

この数十年の日本社会を振り返ると、利益至上主義という感覚が主流で、正義に背いても自分の地位や名声の獲得が優先され、蓄財が自分の価値を高めるものだという感覚が一般社会に浸透してきまし。さらに社会にモノが溢れ、薄利多売で何でもインスタントに手に入るようになったため、モノも人でさえも使い捨てが当然だという感覚に私たちは毒されてきました。しかし、こうした感覚は既に限界がきており、今、新たな価値観、人間観がフルートの世界と同じように必要とされているように思います。ただ、私はそうした過去に背負ってきた価値観、人間感が、どこかで私たちにとって大切なものの方、家族の絆や他者との深い関わり、自然との調和といった感覚を置き去りにしてきたように思われてなりません。

ところで、私の経験から、オーケストラの奏者にとって最も大切なことは、周りの楽器との調和の中で最大限自分の力を活かすことだと思。それは自由勝手に演奏することではなく、指揮者の下で作曲家の意図に従って他の楽器と響き合う中で、オーケストラ全体のために自分の分を尽くすことなのです。私は、不協和音だらけの現代社会にあって、まず私たちの教会の集いが、人と人が互いに尊重し合い神様の下で調和できる、そんな場であれたらと思。そしてその集いから派遣されていく私たち信仰者が、社会の中において人々との調和に役立つ価値観を生きる存在であることを願うのです。

さて、私たち一人一人は、いわば神様が作った楽器に喩えられます。私たちはみな作者として神の名が刻まれている楽器です。作者は決して薄っぺらな音、無味乾燥な音楽を奏するように私たちを作ってはいません。しかしその反面、簡単に深みのある音が出せないのも事実です。楽器は一生演奏家と共に成長します。ですから、生涯かけて神様から頂いている自分という楽器を名器に仕上げていくのは私達自身なのです。弦楽器でも管楽器でも、常によりよい音楽を目指して音を磨く鍛錬をしていないと名器とはならないのです。楽器がただの木や金属の造形だけに終わらず、楽器となること、それも名器になるには、それなりの苦勞を伴う手入れが必要なのです。

私たちも、時流にまかせて短絡的で浅はかな思いに縛られず、人生の最終楽章に至るまで豊かな音色を他者と響かせることができるように、キリストのタクトをしつかり見て、自分という楽器に神様から求められている音色がどんなものであるのかをよく識別して、自分自身の本当の価値に生涯磨きをかけていけたらと思。います。

2年間を振り返って

運営委員会議長 小溝 茂雄

教会には日曜日のミサに通うだけの私だったが、運営委員を2年務めさせていただいた。1年目は事情がよく分らない中、書記と渉外を担当し、多摩南宣教協力の活動にも参加させていただいた。2年目は年の功ということで議長を仰せつかった。

昨年度の運営委員会は、教会のあるべき姿やこれからの在り方の議論を重ね、生涯養成委員会の発足、ミサボランティアの組織化、厨房の安全対策と、新たな取組みを提起し、スタートさせた。今年度の運営委員会は、これらの取組みを着実に推進し、定着させていくことが求められた。

その中で今年度は、厨房の改修が最大課題となった。運営委員会で一致した「ミサ後の食事の提供が教会の活力の源になっている」の認識のもと、安全第一ということで踏み出したが、当初は「改修するのはもったいない」との意見もあり、進めていくことに不安があった。しかし、三軒茶屋教会の見学で「厨房の改修は大正解であった。多くの人が教会に集い、地域活動にも資している」と皆さんが語るのを聞いて、意を強くす

ることが出来た。また、施設管理委員会が検討してきた設計案の説明会で、厨房を利用して居る皆さんから喜んでいただくことができ、本当に良かったと思っている。ご復活の前までに改修工事が完了する見込みである。ここまで来られたのは、松村さん、大木さんをはじめとする施設管理委員会の方々の甚大な努力の賜物と、心から感謝している。運営委員会に関わるまでは「運営委員会による教会運営」ということに違和感を持っていた。しかし、運営委員としてさまざまな活動や議論に参加する中で、司祭のいる教会が現実化してきている現状を考えるならば、運営委員会による教会運営がひとつの選択肢であることがよく理解できた。昔の教会へのノスタルジアだけでは問題の解決にはならない。しかし現状は、毎年運営委員の選出に苦勞している。また規約に縛られて煩雑さが増していることも否めない。教会であることに信頼して、世俗の知恵を超えたもつと緩やかな運用ということも模索していく必要があるように感じている。

★ロザリオは「バラの花輪」の意味

イソトルホのロザリオを祈る会

御聖堂のマリア像の御前で「ロザリオの祈り」を有志5〜6人で唱える会をトルホ(地永)

「私は無原罪の宿りです...」
「私はロザリオの聖母です...」
「アティマの聖母の御意向により」

第1ミサ後、
有志5〜6人で唱える会をトルホ(地永)

スタート
十字のしし
信仰宣言

聖母マリアへの祈り
栄唱

第一玄義
主の祈り

第二玄義
主の祈り

第三玄義
主の祈り

第四玄義
主の祈り

第五玄義
主の祈り

5連で一環

ロザリオの祈り

御母を愛する心を動かす
キリストの最も強力な武器

25の程度です。
ついでにその用意!

各自の意向(希い)を述べる

日曜日なので
「栄えの神秘」を唱えます

四句節には
「苦しみの神秘」を

何時でもどこでも
喜びの時も悲(みの)時
この祈りを唱えて
神様に向かうことが
できれば幸いです!

竹内千鶴子さんの
どなたでも
お気軽に
ご参加下さい

旧聖堂の頃から20年くらい
前、第1ミサ後最前列の席で
祈っている方々に気づき、参加
したのがスタートでした。

「煉獄の靈魂のための祈り」
「大天使ミカエルに向かう祈り」
の2つをいれました

ロザリオは
のたまの祈りです
が、キリストの
心からお祈り
いたします

31年10月22日

★ロザリオの4つの神秘と20の玄義(黙想)

神秘	玄義
喜び(受肉)(肉・土)	①お告げ②ご訪問③ご降誕④主の奉獻⑤主の発見
光(啓示)(木)	①イエスの洗心②カナのしし③神の国の宣教④主の変容⑤最後の晩さんで ご聖体の制定
苦しみ(受難) (火・金)	①ゲッセマネでの祈り②もち打ち③いばらの冠④十字架を担う⑤ご死去
栄え(ご復活) (水・日)	①ご復活②ご昇天③聖霊降臨④聖母の被昇天⑤天の元后の 主の再臨

一粒会とは？

運営委員 立木 欣吾

昨年春から、一粒会の担当を務めております。日頃の一粒会への協力を厚く御礼申し上げます。

教会に足を運んで間もない時期に一粒会(いちりゅうかい)の読み方も会の目的もわからず、信徒の方に教えていただいたことがあります。

改めて一粒会について調べてみたところ、以下東京大司教区創立百周年記念誌「一粒の麦」より抜粋)一粒会とは、神学生の養成を援助するための活動です。1938年に司教叙階式に参列した信徒たちの数人が、司教召命と養成のために「何かをしなくては」と思い立ちたのが一粒会発足のきっかけとなりました。

一粒会の名称は「小さな粒を毎日一粒ずつ貯えていく実行、しかも行いを長続きさせる」ということを考慮に入れての命名「だつたそつです」。

東京教区の「一粒会」の会員は教区民全員です。会長は岡田武夫大司教です。

町田教会の皆様におかれまして、神学生養成のために引き続き心のこもったお祈りと献金のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、昨年度の一粒子会献金

実績は左表の通りです。

2010年度 一粒会 献金実績表 (円)			
1月	91,100	7月	104,400
2月	106,800	8月	62,590
3月	121,320	9月	58,200
4月	65,270	10月	77,500
5月	69,520	11月	75,400
6月	82,540	12月	195,240
		計	1,109,880

土曜学校

クリスマスお泊まり会

リーダー 本宮 智愛

今年は12月11日、12日にクリスマスお泊まり会を行いました。ツリーの飾り付けやケーキ作り、プレゼント交換やゲーム大会など多くのイベントがあり、とても盛り上がりました。

ゲーム大会は班対抗で二つ行い、一つ目は扉の間を飛んでいく物を当てるゲームでした。突拍子もない答えが出るなど、少し難しかったようです。

二つ目はジェスチャーゲームを行い、ジェスチャーを一生懸命真似している姿に周りから笑いが起こるなど、終始楽しめた様子でした。

皆で協力して実施したクリ

スマスお泊まり会は、参加者全員が楽しめた2日間となりました。

小4 プシホゼンえりさ
12月に私は教会学校のおとまり会にいきました。

ゲームやプレゼント交かんは、とってもおもしろかったです。でも、うるさくて、なかなかねなかつたです。

それいいいは、とってもおもしろく、いんしょうにのこつたのは、友だちとたくさん話したことです。またらいねんもあるから、ずーっとまっています。あと、ねるときはマツトレスか、ふかふかのもの

ワンポイント聖書

神の自己紹介

「聞け、イスラエルよ。今日、わたしは掟と法を、お前たちの耳に語る。これを学べ、そして守れ、それを行うために。主は私達の神、ホレブで私たちと契約を結ばれた」
「主は山で、火の真ん中から、お前たちと顔と顔を合わせて語られた。わたしはそのとき、主とお前たちの間に立って、主の言葉を告げた。お前たちが火を恐れたから、そして山に登ろうとしなかつたからである」

申命記5章1〜2、4〜5

十戒の記事は聖書に二回、出エジプト記と申命記に記載されています。どちらを選ぼうか迷った末、時代的に新しい申命記のテキストを取り上げることとしました。

新年会・成人式おめでとう！



(180)

前島 誠

両者の違いはあるのかわからないのか。あるとすればどのような点なのか、必要に応じて触れるつもりでいます。

さて申命記のテキストは、全イスラエルに向けられた神ご自身のメッセージによって幕を開けました(第一戒)。

主は言われた。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」(5章6)

内容は次の三点に絞られます。

1 主「アドナイ」神の固有名詞

2 あなたの神「特別の関わりを持つ神

3 奴隷状態から解放する神

以上が、これまで未知だった「ご自身を語る、神の自己紹介でした。」



今年、私は6年生なので最後の参加になりましたが、また来年もサブリーダーとして参加したいと思いました。

グループでケーキを作ったり、ゲーム大会をしたりしました。ゆるしのひせきもすることができ、とても盛りだくさんだったと思います。

12月11日から12日に土曜学校のクリスマス会がありました。昨年は、インフルエンザ流行のため、お泊まりができなかったのですが、今年ではきたので、のんびりと、また充実した時間を過ごすことができました。

小6 嶋田 めぐみ
をしてくれたりうれしいです。そして3月のおとまり会もたのしみです。

図書紹介

昨年中に登録された50余冊の抜粋です。ご利用をお待ちしております。 図書係：横塚千枝子

- テレーズを愛した人びと 伊従信子
- 愛をこめて生きる 渡辺和子
- パドレ・ピオ 希望の人 レンゾ・アレグリ
- マザー・テレサ 愛と祈りのことば
- ホセ・ルイス・ゴンザレス・バラド
- マザー・テレサ あふれる愛 沖守弘
- 愛する子どもたちへ マザー・テレサの遺言
- 写真・編訳 片桐弘史
- 宣教師マザー・テレサの生涯 - スコピエからカルカッタへ
- 工藤裕美 シリル・ヴェリヤト
- 沖縄・チビリガマの“集団自決” 下嶋哲朗
- 貧困の光景 曾野綾子
- ほんとうの話 曾野綾子
- いのちの優しさ 高史明
- いのちの行方 高史明

- ハンセン病 資料館 小笠原登 大谷藤郎
- ほんとうの愛を生きるための88のことば 福田勤
- 自分を大切にしてはいけないのですか 森一弘
- 世界と日本と民主主義のありようを考える 末吉矢作
- 感謝と賛美 司祭金祝を迎えて 岡田武夫
- キリストの心を生きる宣教 木邨健三
- このままでいいのか とともに考える人権 三浦綾子
- 銃口(上・下) 遠藤周作
- 勇気ある言葉 遠藤周作
- 切支丹の里 遠藤周作
- 吾が顔を見る能はじ 遠藤周作
- 解説「ヨハネ福音書・ヨハネの手紙」
- ヨハネ共同体の神学とその史の変遷
- レイモンド・ブラウン 湯浅俊治 監訳 田中昇 訳
- キリスト教と私 アルフォンス・デーケン
- ♡こども向けの本♡
- 100万回生きたねこ 作・画 佐野洋子
- おじさんのかさ 作・画 佐野洋子
- 聖書のおはなし 小塩節・トシ子 画 永田萌
- ベン・ハー(1)(2) ルー・ウォーレス 角田照雄 訳

信者動静

2010年12月～2011年2月

(個人情報のため、削除しています)

「雷の子」次号編集会議予定
4月3日(日)09時30分
於会議室
原稿募集
「雷の子」5月号では、高木、田中両神父とのお別れ特集を予定し、皆様からの投稿をお待ちしています。詳しくは、広報担当者までお尋ねください。

犠牲献金 中高生会	
12月12日	8,064円 (ペロニカ苑へ)
1月9日	11,500円 (ペロニカ苑へ)
2月13日	17,730円 (ペロニカ苑へ)